



基本前提の歌

創始の師なるアドラーと
ドライカースとシャルマンと
多くの師たちと同学と
教えを頼りに学ぶべし

科学は事象を詳しく観察し
仮説を立てて未来を予測して
実証的に結果を確かめて
理論を作り世界を記述する (1)

予測と制御が科学の目的で
未来を知って具合が悪ければ
理論をもとに対処を考えて
よりよい結果になるよう工夫する (2)

すべての理論はもつとも根本に
証明できない公理が横たわり
基本前提などと呼ばれるが
以下の五つが提唱されている (3)

ひとつは個人の主体性といい
個人が心と体を動かすが
心が個人を動かすのではない
個人はいつでも主語の位置にある (4)

ふたつは目的論と名づけられ
本能欲求衝動感情が
個人を動かすものだと考えず
個人がそれらを使って生きていく (5)

自然科学は事象の原因を
一因一果の仮説で考えて
物理現象化学反応を
ものの見事に説明してみせた (6)

人の心は一因一果では
どのようにしても説明できないが
目的論を採用するならば
予測と制御ができるようになる (7)

動物たちは個体の生存と
種族の保存を目指して生きている
人は社会的な動物で
社会があってはじめて生きられる (8)

そのため人の究極目標は
社会の中に居場所を見つけ出し
所属をとげて人から愛されて
仲間と一緒に暮していけること (9)

所属のために選ぶ方法は
人ごとにみな違うものであり
それが個人の個性を作り出す
いかなる個性も所属に向いている (10)

ある種の個性は所属を目指しつつ
正しい方法学んでいないため
競争的な目標追求し
努力をしても結果が得られない (11)

勝って所属をしようとすることも
負けて所属をしようとすることも
やればやるほど所属に失敗し
自分と他人を不幸にするばかり (12)

不幸を感じて暮しているならば
ある日のひとつのエピソードをとって
感情思考行動手がかりに
仮想的な目標調べよう (13)

自力かあるいは人に助けられ
隠れた目標意識にのぼらせて
競争的とわかれば工夫して
協力的な案を試みる (14)

こうして日常実践続ければ
次第に心は協力的になり
やがてはいちいち意識しなくても
協力的に暮らせるようになる (15)

勝ち負けのない協力平等の
真の所属を目指して実践し
子どもに伝え人類全体が
幸福になるその日が来ますよう (16)

みつつは全体論と呼ばれるが
個人は有機統合体であり
部分の和よりも大きな全体で
部分の間に葛藤矛盾はない (17)

意識と無意識理性と感情は
一見すると対立していると
見えるが実はそんなことはなく
分業しながら協力して動く (18)

近代科学は部分を研究し
それを集めて世界の運動を
一種の機械のように説明し
要素論的理論を作ったが (19)

そのやり方を社会や精神に
当てはめようとさまざま試みて
結果的にはかえって文明を
危険にさらす愚行を繰り返す (20)

心も社会も生きた全体で
要素論では予測もできないし
制御をすればかえって危なくて
バランス崩して悪くなるばかり (21)

社会はともかく個人の心には
全体論は役立つアイデアで
予測も制御もどちらも可能だし
バランス保って改善してゆける (22)

よっつは社会統合論といい
一対一の二人の関係を
調べてそこから科学の方法で
人の心を説き明かそうとする (23)

心理学が科学であるために
観察できない心の中でなく
観察できる対人関係を
対象にして理論を組み立てる (24)

二人の間が競争的ならば
どちらが上でどちらが下なのか
決めようとして争い続けるが
これを縦の関係などと呼び (25)

二人の間が協力的であり
相手に任せて口を出さないか
力を合わせて一緒にはたらけば
横の関係と呼んで区別する (26)

二人の間が競争的ならば
相手の賞賛得るため行動し
だめなら不適切な行動で
注目関心引こうと試みる (27)

競争性がもっと強ければ
権力争い互いに興奮し
相手を負かして自分が勝とうとし
感情投げつけ相手を罵倒する (28)

負ければ裏に回って復讐し
相手の心を傷つけようとする
たとえば犯罪行為に走ったり
病的思考で相手を困らせる (29)

それでもだめなら最終段階で
無能力を誇示して人々が
自分に一切期待せぬように
脱落者としてむなしく生きていく (30)

これらの競争的なやり方は
相手も競争的にするために
悪循環が回転し続けて
終わることなく二人を苦しめる (31)

ひとりが協力的な生き方を
学んで相手を尊敬信頼し
勇気づければ二人の関係が
変わって自分も相手も幸福に (32)

人はいつでも社会に組み込まれ
自分の行為が相手を決めてゆく
相手の行為が自分を決めてゆく
自分が変わることから始めよう (33)

これはみんなにとってなんだろう
私はみんなになにができるだろう
これを共同体感覚といい
明るい未来を作る鍵となる (34)

いつつは仮想論と名づけられ
個人は事象を勝手に解釈し
それを事実と思って生きていく
主観の世界に人は生きている (35)

事象を個人が認識したときに
良いか悪いかどちらでもないか
無意識的に判断するのだが
根拠を私的感覚などと呼ぶ (36)

悪いと思えばライフタスクだと
劣等感を感じて判断し
対処行動おこして補償して
仮想目標目指して行為する (37)

ライフタスクは価値のマイナスで
仮想目標価値のプラスだが
客観的にそうなのではなくて
個人の意味づけ以上のものでない (38)

私的感覚根拠に判断を
繰り返すので個人の行動は
いつでも決まった冗長性があり
事前に予測ができることになる (39)

古典的にはライフスタイルと
呼ばれるけれどいまのはやりでは
ナラティブなどと呼ばれることもある
個人がこの世を生きる物語（４０）

競争的な私的感覚は
生活上の問題困難を
引き起こすのだが当の本人は
自分のせいだと知らないかもしれぬ（４１）

ある場合には共通感覚と
違っているので問題抱え込む
普通は人はどんなに思うかを
知れば摩擦を起こさなくてすむ（４２）

人によっては共同体感覚
育ってなくて問題抱え込む
自己執着をいったん保留して
相手のために貢献考えよう（４３）

相手の目で見えて相手の耳で聴き
相手の心で考えられるよう
普段の暮らして訓練繰り返し
思い込みの罫から抜け出そう（４４）

私的感覚あたかも絶対の
真理と思わず違った考えも
可能であると認める生き方を
価値相対論と呼んで重視する (45)

現代世界の不幸のさまざまは
自分が正義で相手が悪人と
相手を裁いて競争的になり
暴力的に解決するによる (46)

共同体に貢献することを
仮に共通価値と認めあい
理性によって対話を重ねれば
明るい未来を築いてゆけるだろう (47)

これでアドラー理論の概略を
説明したがさまざま展開が
可能であるので継続学習を
続けて理解を深められるよう (48)

得られた知識を人々と
世界の未来の幸福に
献げるように毎日の
学習実践励むべし

Version α	2016/03/03
Version β	2016/03/04
Version 1.0	2016/03/10
Version 1.1	2016/03/28